

埼玉中央

全国主要新聞へ  
折り込み 取り扱い

折込広告なら  
朝日オリコミ  
埼玉支社

048-657-197  
月～金 9:30～18:00

www.asaori.co.jp

県内の天気

さいたま	あす
熊谷	秩父

きょうの予想 (さいたま)

降水確率 朝70% 昼70% 晩80%  
気温 最高17度 最低15度  
北の風

さいたま支局 千330-0063  
さいたま市浦和区 高砂3-12-2 小峰ビル2F  
電話 048-834-0300  
FAX 048-834-0511  
mail:saitama@tokyo-np.co.jp

通信局・部  
熊谷 048-521-2724  
越谷 048-989-7770  
羽生 048-561-2523  
所沢 044-2937-7316  
川越 049-223-8814  
秩父 0494-22-1596

台風19号

浸水家屋で懸命の片付け

東松山などで158人避難

台風19号の影響で、県内は十七日も、住民やボランティアが浸水した家屋の片付けに汗を流した一方、専門家が甚大な被害をもたらした河川の決壊の原因を調査した。県の同日午後三時現在のまとめでは、東松山、坂戸、川越市で計百五十八人が避難生活を続け、秩父市と寄居町の計二十五世帯で断水している。

(渡部 稜、中里宏、飯田樹与、寺本康弘)

大東文化大ラグビー部助っ人に

近くを流れる都幾川の堤防が決壊し、多くの住宅が浸水被害を受けた東松山市早俣地区では、市内にキャンパスがある大東文化大のラグビー部員二十一人ら学生ボランティア計約三十人が、大量の水が流れ込んで壊れた家財道具など災害ごみの処理に苦しむ住民を手助けした。住民らは「若い人たちが来てく

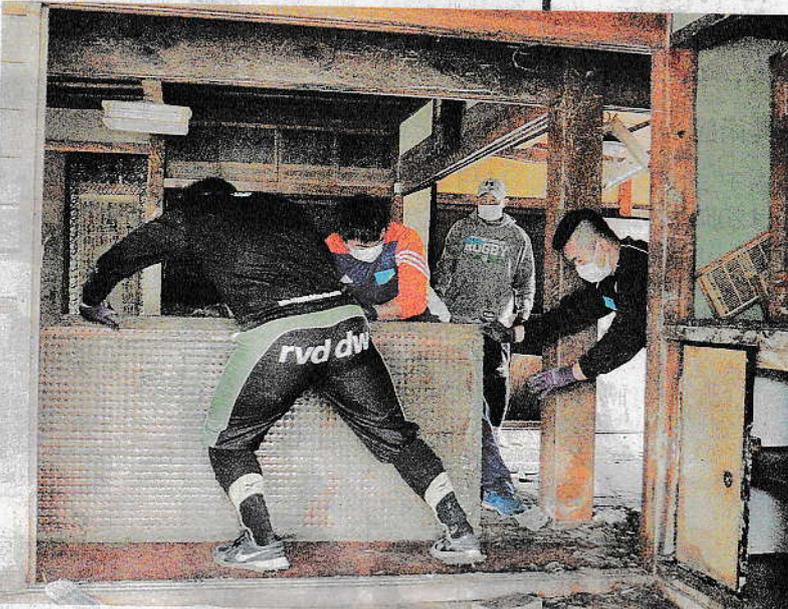
浸水被害の東松山で  
災害ごみを運び出し

れると雰囲気明るくなる」などと、頼もしい助っ人の登場を歓迎していた。一階部分が全て浸水したという千代田皓子さん(全宅)には、ラグビー部員と監督の計七人が訪問。長男(四)との二人暮らしで、ぬれて重くなった畳や冷蔵庫、洗濯機など、使えなくなった重い家財道具を運び出すのに苦

勞していたという。千代田さんは「若くて力のある人は本当に助かる」と、次々とごみを運び出す学生たちに感謝していた。ともにラグビー部四年の藤井大喜副主将(三)と戸巻大輔さん(三)は「ラグビー以外で役に立って、うれしい」と話した。ラグビーワールドカップ(W杯)の試合が台風の影響で中止になった岩手県釜石市の被災地でボランティア活動をしたカナダ代表に刺激を受けていたという。

決壊現場を視察 調査委

堤防が決壊した東松山市の都幾川と川越市の越辺川など三カ所では、国土交通省関東地方整備局が決壊の原因究明のために有識者で設置した「堤防調査委員会」(委員長・安田進東京電機大名誉教授)が、現地調査を実施した。安田委員長は、堤防決壊の原因には、川の水があふれ出て堤防を破壊する「越流破壊」▽流れが堤防を削り取る「洗掘」▽堤防に浸透した水による「パイピング破壊」の三つがあると



ぬれた畳を運び出すボランティアの学生たち—東松山市で

↓次ページへ

越辺川の決壊現場を調べる国交省の堤防調査委員会。週末の雨を前に応急工事が急ピッチで進められていた川越市で



指摘。「当日の水位の変化や堤防の土質、堤防の下の地盤を追加で調査しないと原因は分からない。原因を特定した上で復旧工法を提案したい」と述べた。

今回の堤防決壊が河川の合流部で起きていることについては「合流部は水位が上がったり、下がったり複雑な状況になる。両方の河川の水位観測の結果を基に分析したい」。比較的狭い範囲での複数の堤防決壊に関して「私が知っている限りでは、なかなかない」として「超大型台風が広範囲にもたらした多量の雨水が流れてきたかと思っっている」と語った。

調査に同行した関東地方整備局の佐藤寿延河川部長は「週末の雨に備えて二十

四時間態勢で、決壊箇所に応急工事を進める」と話した。

### 浸水被害の3市 大野知事が視察



被災した施設の状況を聞く大野知事(右端)＝川越市下小坂の川越キングス・ガーデンで

大野元裕知事は、被害状況を把握するため、大規模な浸水被害を受けた東松山、坂戸、川越市の被災現場を視察し、三市長と意見交換した。

川越市では、利用者ら計約二百人が一時、浸水で孤立した特別養護老人ホーム

「川越キングス・ガーデン」と系列のケアハウス「主の園」を訪問。職員やボランティアが、泥がこびり付いた廊下を掃除したり、備品を外に運んだりする中、渡辺圭司施設長から被害状況などを聞いた。

東松山市内で堤防が決壊した新江川、一階部分が浸水して一時断水もした県営東坂戸団地(坂戸市)も回った。

視察後、今後の対策について「国・県・市をどうつなげていくのかが短期的には一番大きな仕事。中長期的には、未曾有の災害が常態化する」という最悪の想定

に対応すべく今回の案件を見直し、市と協力しながらより良い体制をつくりたい」と力を込めた。十七日には、落石防止用のロックシェッドが崩落した県道など、秩父市内を視察する予定。